

漁海況情報

令和6年11月7日 第14号（通巻780号）

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎 2861-3

TEL : 0837-26-0711 FAX : 0837-26-1042 Mail : a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

【海鳴りネットワーク】 <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

2024年度 第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報

令和6年10月30日に開催された第121回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁況海況予報会議の結果（2024年11月～2025年3月における海況・漁況の見通し）をお知らせします。

* 参画機関：水産庁、国立研究開発法人 水産研究・教育機構、（一社）漁業情報サービスセンター、青森県、秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

【海況の今後の見通し（2024年11月～2025年3月）】

1 海流

薩南海域における黒潮北縁域は、短期的な南北移動を繰り返すが、11月は「接岸傾向」、12月以降は「屋久島南付近での変動（平均的な位置）」もしくは「接岸傾向」で経過する。

2 表層水温

11月は、山口県沿岸・沖合、対馬東水道、壱岐水道、五島西沖、五島灘、天草西沖、沖縄島周辺海域で「平年並み～やや高め」、西薩・甑沖、薩摩沿岸、薩摩沖合、大陸棚で「やや高め～かなり高め」、黒潮流域で「はなはだ高め」となるが、12月以降は全体的に「平年並み～やや高め」で経過する。

（注）引用符「」で囲んで表した平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり。

「平年並み」：約2年に1回程度の発生頻度 「やや」：約3年に1回程度の発生頻度

「かなり」：約7年に1回程度の発生頻度 「はなはだ」：約22年に1回程度の発生頻度

【漁況の今後の見通し（2024年11月～2025年3月）】

対象海域：東シナ海

対象漁業：まき網、定置網、その他

対象魚群：0歳魚（2024年級群（2024年生まれ））、1歳魚（2023年級群）、2歳魚（2022年級群）、3歳魚（2021年級群）。魚の大きさは、マアジ・さば類は尾叉長、いわし類は被鱗体長で表示。

1 マアジ

(1) 来遊量

- ・ 沖合域は前年並みで平年を下回る、沿岸域は前年・平年並み。

(2) 漁期・漁場

- ・ 期間を通して、対馬沖、沿岸域が漁場となる。

(3) 魚体

- ・ 10～19cmの0歳魚（豆・ゼンゴ銘柄）および19～24cmの1歳魚（小銘柄）が主に、24cm以上の2歳魚以上（中・大銘柄）も漁獲される。

2 マサバ

(1) 来遊量

- ・ 沖合域は前年並みで平年を上回り、沿岸域は前年・平年並み。

(2) 漁期・漁場

- ・ 期間を通して、対馬沖、沿岸域が漁場となる。

(3) 魚体

- ・ 25～28cmの0歳魚（豆銘柄）および28～32cmの1歳魚（小銘柄）が主に漁獲される。

3 ゴマサバ

(1) 来遊量

- ・ 沖合域は前年並みで平年を下回り、沿岸域は前年・平年並み。

(2) 漁期・漁場

- ・ 期間を通して、東シナ海中部、五島灘・薩南、対馬沖が漁場となる。

(3) 魚体

- ・ 沖合域では25～30cmの0歳魚（豆銘柄）および30～33cmの1歳魚（小銘柄）が主に漁獲される。沿岸域では20～35cmの0歳魚以上（豆～中銘柄）が主に漁獲される。

4 マイワシ

(1) 来遊量

- ・ 前年並みで、平年を上回る。

(2) 漁期・漁場

- ・ 期間を通して、長崎県以南の沿岸域が漁場となる。

(3) 魚体

- ・ 14～17cmの0歳魚（小羽・中羽銘柄）主体に、18～23cmの1歳魚以上（中羽・大羽銘柄）も漁獲される。

5 ウルメイワシ

(1) 来遊量

- ・前年並みで、平年を上回る。

(2) 漁期・漁場

- ・期間を通して、長崎県以南の沿岸域が漁場となる。

(3) 魚体

- ・15～25cmの0・1歳魚（中羽・大羽銘柄）が主に漁獲される。

6 カタクチイワシ

(1) 来遊量

- ・前年・平年を下回る。

(2) 漁期・漁場

- ・期間を通して、長崎県以南の沿岸域が漁場となる。

(3) 魚体

- ・5～10cmの0歳魚（カエリ・小羽・中羽銘柄）が主体で、10cm以上の1歳魚（大羽銘柄）が混じる。

（注）「前年」は2023年4月～2023年8月。「平年」は過去5年間の平均値。